

輸液剤用保温庫の特徴と重要な条件について

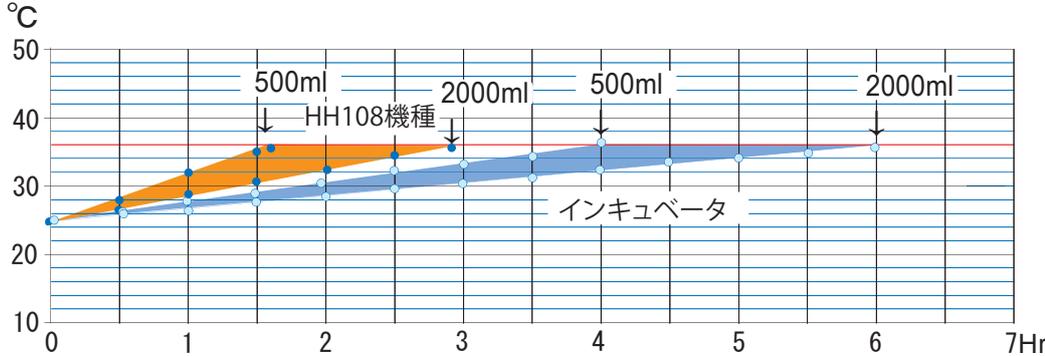
1. 庫内を乾燥しながら保温をして菌の増殖を防ぐ
2. 安心の温度制御と安全回路
3. インキュベータなどの3~4倍の温め能力で短時間保温
4. 豊富な機種から各容器の大きさに最適な機種を選択
5. 輸液剤の保温用のための設計



資料作成日 2015.1.10

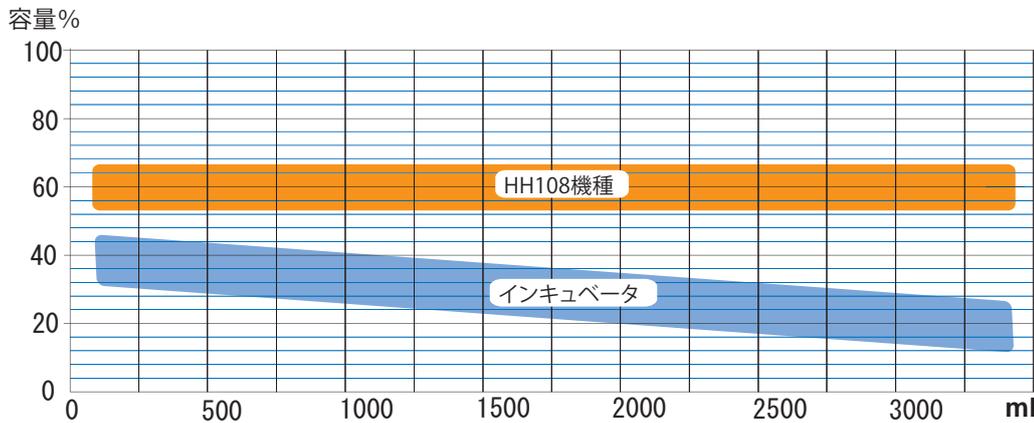
株式会社 生田産業
Tel : 0268-35-1104
Fax : 0268-35-1561

■ 図 1 : HH108機種とインキュベータの保温時間の比較(ソフトバッグ)



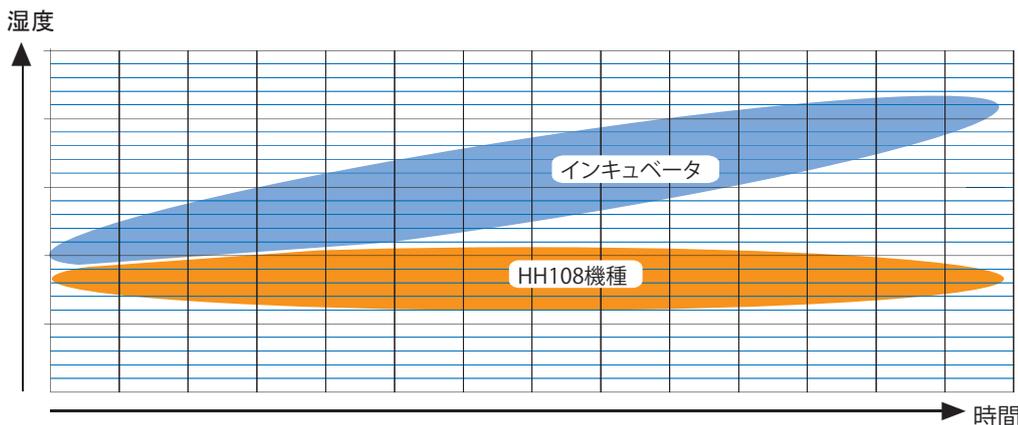
インキュベータは培養などを目的としているため庫内の空気循環を低く設計しているのに対して、輸液剤用保温庫は大小の各容器を効率よく同じ温度にすることを主にして設計をしています。
※各機種の個別カタログで表示の温まるまでの時間は5°Cに保冷した条件から温まるまで時間です。

■ 図 2 : HH108機種とインキュベータの庫内容量に輸液製剤を安定して保温が出来る容量の比較(ソフトバッグ)



この輸液剤保温庫は庫内の左右から強風で設定温度の温風を出して庫内に入れた容器の隅々まで行き渡る構造で大小の容器または形状の異なる容器を均一に温めることが出来ます。

■ 図 3 : HH108機種とインキュベータの庫内湿度分布の比較



一般のインキュベータは培養などを目的としているため外部からの空気の出入りを嫌うので、密閉または密閉に近い構造をしています、そのため長く使用していると庫内の湿度が高くなりカビや菌類の増殖の原因になります。この輸液剤用保温庫は菌などの増殖を防ぐため乾燥しながら保温する構造設計です。

■ 表 1 : HH108機種とインキュベータの安全回路などの比較 (インキュベータ:弊社汎用機種)

※輸液製剤用保温庫はインキュベータに比べて温度制御など2重・3重の対応をしています。

内 容	HH108機種	インキュベータ
目的の用途	輸液剤・造影剤の保温	培養・定温保存
保温効率	高い温風強制循環	自然循環または弱強制循環
庫内温度分布	高い温風強制循環	自然循環または弱強制循環
温度安全回路 1	扉開け時ヒーター出力OFF	— (※オプション)
温度安全回路 2	扉開け時循環ファンOFF	— (※オプション)
温度安全回路 3	ヒーター出力信号OFF	— (※オプション)
温度安全回路 4 / 過熱防止	設定値プラス1°CでOFF	— (※オプション)
温度制御	2重制御	1制御
温度センサー	2個センサーによる平均制御	1センサー
過電流・過電圧・漏電回路	有り・有り・有り	有り・有り・有り
24時間繰り返しON-OFF回路	有り / 15分単位設定可	— (※オプション)

お客様の用途で容器の容量や本数に合わせて機種選定することをお勧めします。
また、用途範囲が広いので現在の使用数よりも大きめの機種を選定することをお勧めしています。